

第48回全国保育団体合同研究集会 集会宣言

第48回全国保育団体合同研究集会は、「ひろげよう！ 平和への願い つなげよう 保育・子育ての輪」をテーマに島根県松江市で開催され、小さな県の大きな挑戦に応じて、全国各地から4343人の参加者が集いました。

子ども・子育て支援新制度の施行から1年余を経て、各地で様々な問題や混乱、保育の格差が広がっていることが明らかになりました。待機児童の解消がすすまないなか、市町村の関与を必要としない企業主導型保育の導入など、国や自治体の責任が縮小し、規制緩和や基準の切り下げにより、子どもたちの命や発達を保障する保育が脅かされようとしています。

島根県では一部の自治体で待機児童が生じていますが、一方、人口減少自治体では、地域や住民の願いに応える保育のあり方が問われています。

そうしたなかで、島根県実行委員会は合研集会の開催に向けて、県内のすべての保育施設、幼稚園、学童保育などに参加を訴えるとともに、若い世代に保育運動を引き継ぐとりくみをすすめました。県内すべての市町村をはじめ多くの機関、保育団体の後援を得て、保育・子育てに関心をもつ方々につながりを生かして広く参加を呼びかけるなかで、私たちが望むよりよい保育の中身と制度のあり方をあらためて確かめ合う集会にすることができました。若い世代も含めた新たなつながり、新たな学び合いの可能性も広がっています。

いま、世界では、国や地域、民族や宗教などのちがいによる対立によって、幼い子どもを含めた罪のない人々が危険にさらされています。日本でも安保法制の成立や9条改憲の動きなどが危惧されています。

平和なくして、子どもたちの幸せな今と未来はありません。親や保育者、教師、指導員など子どもたちの身近にいる私たちは、どんなことがあっても平和を守り貫きたいという決意を手放さず、子どもたちに信頼される大人になることが問われているのではないのでしょうか。

私たちはこの集会で得たたくさん学びを糧に、すべての子どもの「最善の利益」を実現するとりくみの新たな一歩を踏み出しましょう。子どもたちが安心できる環境を願う気持ちは共通です。それぞれの職場で、地域でねばり強く実践を重ね、よりよい保育の実現をめざす幅広い共同をつくりだしながら、明日の保育をきりひらいていきましょう。

2016年8月22日

第48回全国保育団体合同研究集会